

ユニット 1-A : インド的世界観 (ver2.6)

ねらい

古代インド人の世界観は東南アジアはもとより東アジアにも大きな影響をもたらした。このユニットでは、仏教とヒンドゥー教の世界観および仏教の六道説について概観する。

1. 仏教の世界観

世界の構造

- 風輪 (高さ 1,600,000 由旬) (仏教の 1 由旬=約 7km)
- 水輪 (高さ 800,000 由旬)
- 金輪 (高さ 320,000 由旬) (水輪と金輪の境界が金輪際)
- 須弥山 (しゅみせん、1 辺 80,000 由旬、方形)
- 7 つの山脈 (方形)
- 四つの州 (dvīpa、大陸、州) : 東 : 勝身州 (しょうしんしゅう)、南 : 瞻部州 (せんぶしゅう=閻浮提、えんぶだい)、西 : 牛貨州 (ごかしゅう)、北 : 俱盧州 (くるしゅう)。東→南→西→北。
- 鉄围山 (てっちせん、円形)

瞻部州の構造

- 瞻部州、閻浮提 (えんぶだい、Jambu-dvīpa)
- ジャンプ jambu (フトモモ科 *Syzygium samarangense*) 3~5cm の果実。
- 台形 (2,000 由旬×3 辺、3.5 旬)
- 雪山 (ヒマラヤ山脈)、無熱惱池 (むねつのうち)
- ガンジス河、インダス河、オクサス河、シーター河
- 東 : 銀牛口、南 : 金象口、西 : 瑠璃馬口、北 : 玻璃獅子口
- 香醉山 (カイラーサ山)
- 東 : 遮末羅島 (しゃまつら)、西 : 筏羅遮末羅島 (ばつらしゃまつら)

須弥山

- 須弥山 (しゅみせん、Sumeru、=Meru、妙高山)
- 高さ : 16 万由旬 (水面下に 8 万由旬)
- 幅 : 方形、1 辺 8 万由旬。
- 頂上 : 三十三天 (Trāyastriṃśa、忉利天) の住みか。中央に帝釈天 (Indra) の宮殿 (殊勝殿)。四隅の峰に各 8 天、計 32 天。注意 : 「天」は神の意と神々の住居 (天界) の意。
- 中腹 : 四天王とその眷属の住みか。
- 四天王 : 東 : 持国天、南 : 增長天、西 : 広目天、北 : 多聞天 (Vaiśravaṇa、=毘沙門天)
- 太陽、月は須弥山の周りをめぐる。
- ラーフ (Rāhu、羅睺) : 阿修羅の一つ。太陽・月を食うことで日食・月食を引き起こす。
- 空中宮殿 (vimāna) : 須弥山の上空に、覩史多天 (Tuṣita、兜率天) の住みか (将来仏である弥勒菩薩が住む) など 21 の天界がある。
- [参考] 仏教の三界 (さんがい) : 欲界、色界、無色界からなる。1) 欲界は欲望にとらわれた生き物の世界。人間、動物、餓鬼、地獄の住人、阿修羅、神の一部 (四天王、三十三天、覩史多天を含む 6 天) が住む。2) 色界は物質的制約はあるが欲望を離れた世界。四禪天 (計 17 天) が住む世界。3) 無色界は欲望も物質的制約も離れた禅定の段階。空無辺処から非想非非想天までの 4 天がある (物理的な位置はない)。「三界火宅」

地獄

- 地獄 (naraka、奈落) は瞻部州の地下に位置。
- 八熱地獄：統活、黒繩、衆合、号叫、大叫、炎熱、大熱、無間
- 副地獄：128
- 八寒地獄

2. ヒンドゥー教の世界観

世界の構造

- 「ブラフマー神の卵の殻」
- ジャンブ州 (円盤状)：直径 100,000 由旬 (ヒンドゥー教の 1 由旬=約 15km)
- ジャンブ州を囲む 6 つの大陸と 7 つの海 (ドーナツ状)。(第 4 の海がサルピス Sarpis 海)
- メール山：ジャンブ州の中央にそびえる黄金の山。高さ 84,000 由旬、頂上部の直径 32,000 由旬。
- メール山の北側と南側にそれぞれ東西に走る山脈が 3 つずつ。山脈の間に国。
- メール山頂：ブラフマー神 (Brahmā、梵天) の都城。
- その八方にローカパーラ (護世神) の都市：東：インドラ神 (Indra)、南：ヤマ神 (Yama、閻魔)、西：ヴァルナ神 (Varuṇa)、北：クベラ神 (Kubera、=Kuvera)、南東：ヴィヴァスヴァット神 (Vivasvat)、南西：ソーマ神 (Soma)、北西：アグニ神 (Agni)、北東：ヴァーユ神 (Vāyu)。
- 最南端の山脈：ヒマヴァット山脈 (Himavat、=ヒマラヤ、Hima-ālaya)。
- 最南端の国：バーラタ国 (Bhārata)。バラタ (Bharata) の子孫の国。南を弧とする半円形。南北の幅 9,000 由旬。インド共和国の正式名称。
- 地下世界：7 層。阿修羅のなかま (Dānava、Daitya など)、夜叉、竜などが住む。
- 地獄：28 地獄
- ヒンドゥー教の三界：天界 (svarga)、地上界 (pṛthvī)、地下界 (pātāla)。

3. 仏教の六道 (ろくどう、=六趣、ろくしゅ)：六つの生命形態

- 輪廻 (りんね) 転生 (saṃsāra)
- 天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道。
- 天=神。帝釈天、梵天など。
- 修羅=阿修羅 (asura)
- [参考] 八部衆：天 (deva)、竜、(nāga)、夜叉 (やしや、yakṣa)、乾闥婆 (けんだつば、gandharva)、阿修羅 (あしゅら、asura)、迦楼羅 (かるら、garuḍa、=金翅鳥)、緊那羅 (きんなら、kiṃnara)、摩睺羅迦 (まごらが、mahoraga)。
- [参考] 四天王：東：持国天、南：増長天、西：広目天、北：毘沙門天 (多聞天、Vaiśravaṇa ←クベラ)
- 輪廻転生の原動力：業 (ごう、karman、行為)
- 善因楽果・悪因苦果

参考図書：今回の講義のテーマに関わるもの

1. 定方 晟. 1973. 『須弥山と極楽』(講談社現代新書) 講談社.
2. ————. 1980. 『仏教に見る世界観』(レグルス新書) 第三文明社.
3. ————. 1985. 『インド宇宙誌』春秋社.
4. ————. 2011. 『インド宇宙論大全』春秋社.

1と2はインドの仏教における世界観、3はインドのヒンドゥー教における世界観を取り上げている。4は同一著者による著作の集大成。

ユニット 1-B : インド的歴史観 (ver2.3)

ねらい

古代インド人は、この世界（宇宙）の始まり・変化・終わりについて、独特の「歴史」観を作り上げた。ここで「歴史」というのは、現実の出来事の継起という意味ではなく、神々と英雄をめぐる語りにおいて語られる過去から未来にいたる時空間（time-space）のことである。このユニットでは、東南アジアにも多大な影響を及ぼしたインド的歴史観について、主としてヒンドゥー教の視点から概観する。

1. ヒンドゥー教の神々

- ヴェーダの神々：バラモン教の神々。自然現象の神格化。例：アグニ神（火神）、ヴァーユ神（風神）、スーリヤ神（太陽神）、インドラ神（帝釈天、雷神）。
- 叙事詩・プラーナの神々：ヒンドゥー教の神々。人格神。民衆信仰に起源。
- トリムルティ（三位一体）：宇宙の創造・維持・破壊を司る3大神
- ブラフマー（=梵天）：宇宙の創造。妃サラスヴァティー（=弁才天）。
- ヴィシュヌ：宇宙の維持。妃ラクシュミー。
- シヴァ：宇宙の破壊。妃パールヴァティー（ウマー=ドゥルガー）。

2. 宇宙の生成と消滅

- 四つのユガ。1《神》年=360《人》年。1マハー・ユガ=12000《神》年=432万《人》年。
- (1000ユガ=1カルパ(kalpa、劫)とされる。「未来永劫」「億劫」)
- クリタ・ユガ(=サティヤ・ユガ)：正法(ダルマ dharma)の時代。4800《神》年。
- トレーター・ユガ：正法の4分の1が欠ける時代。3600《神》年。
- ドヴァーパラ・ユガ：正法が半分欠ける時代。2400《神》年。
- カリ・ユガ：正法の4分の3が欠ける。現代。1200《神》年。

3. 仏教とヒンドゥー教の宇宙の違い

- 仏教：創造主なし。「衆生」の「業」によって生成・消滅。
- ヒンドゥー教：宇宙は神によって創造・維持・破壊される。時間とともに法が減少。

4. アヴァターラ (avatāra) : ヴィシュヌ神の10の化身・転生 (ヴィシュヌ信仰)

- 魚(マツヤ)(クリタ・ユガ)
- 亀(クールマ)(クリタ・ユガ)
- 猪：ヒラニヤークシャを倒す(クリタ・ユガ)
- 人獅子(ナラシンハ)：ヒラニヤカシブを倒す(クリタ・ユガ)
- こびと(ヴァーマナ)：バリを倒す(トレーター・ユガ)
「巨大化したヴァーマナの三歩」(トリヴィクラマ trivikrama)
- パラシュ・ラーマ(斧を持つラーマ)(トレーター・ユガ)
- チャンドラ・ラーマ：「ラーマヤナ」の主人公(トレーター・ユガ)
- クリシュナ：「マハーバーラタ」の主要人物の一人(ドヴァーパラ・ユガ)
- ブッダ(カリ・ユガ)
- カルキ(カリ・ユガ)

参考文献：今回の講義のテーマに関わるもの

1. 青山 亨. 「叙事詩, 年代記, 予言: 古典ジャワ文学にみられる伝統的歴史観」. 『東南アジア研究』32巻1号. pp.34-65. 1994.
2. 定方 晟. 『須弥山と極楽—仏教の宇宙観—』(講談社現代新書) 講談社. 1973.
3. 定方 晟. 『インド宇宙誌』春秋社. 1985.
4. 定方 晟. 『インド宇宙論大全』春秋社. 2011.
5. 長谷川 明. 『インド神話入門』(とんぼの本) 新潮社. 1987.
6. 菅沼 晃. 『インド神話伝説辞典』東京堂出版. 1985.
7. Dowson, John. *A Classical Dictionary of Hindu Mythology and Religion*. Org. 1894.